

巻頭言

良き本との出会いを

図書館情報センター館長 白石 浩之



図書館情報センターの集計によると、2014年度図書館の本を学生に貸し出した冊数は一人あたりに換算すると1.97冊にとどまりました。この数値は決して感心できる数値ではありません。加えて読書好きな学生は何冊も多く読んでいることを考えますと、未だ本に接しない学生が多くいるという二極化現象となっているのかもしれない。願わくは学生自らが本を買って自宅や電車の中で読んでいるので借り出し冊数が少なかったと思いたいものです。

愛知学院大学の図書館は私立大学の中でも規模の大きいことで知られており、蔵書数は、日進キャンパス96万5千冊、名城公園キャンパス4万3千冊、楠元キャンパス17万2千冊を有しています。また電子図書も急激に増加傾向にあり、766冊(全キャンパス合計)となっています。加えて希少図書も多く有しており、大学の大きな知的財産であります。しかしこの貴重な財産を書庫に眠らしても意味が無く、もったいないと思います。本は力の源泉です。考える力すなわち創造力や人間形成を養います。活用してこそますます本の楽しさが倍加するでしょう。結果的にはさまざまな知力が蓄えられ、本との出会いが自分の進路や人生を大きく変えるきっかけをつくることを確信しています。

今からでも遅くはありません。大学図書館閲覧室の書架に囲まれた素晴らしい環境の中で、ゆっくりと本を読みましょう。書庫オリエンテーションを受けて、広い書庫でさまざまな本を探す喜びもあるでしょう。本はその内容の構成も大事ですが、本の表紙の装丁や挿図の意図を思うのも楽しいものです。

学生が図書館情報センターを積極的に利用していただくことが活性化につながりますのでよろしくお願いします。

